

応用数理 E 第 1 回目

永幡幸生
新潟大学工学部

2024 前期

はじめに

受験の知識を使えば組み合わせの考え方を使うことで、実際に 1024 通りのうち○の個数に関してどのような数になっているのか簡単に計算できます。表を作つてみると

○の数	0	1	2	3	4	5
総数	1	10	45	120	210	252

○の数	6	7	8	9	10	計
総数	210	120	45	10	1	1024

はじめに

並んだ個数の最大数は上のような簡単な数え方はありませんが、
例えば 10 個程度であれば

- (i) プログラムを書いて数え上げる。
- (ii) 次のような数え方でもなんとかなる。

はじめに

まず 10 を次のように分割します。

$$\begin{aligned} 10 &= 10 \\ &= 9 + 1 \\ &= 8 + 2 = 8 + 1 + 1 \\ &= 7 + 3 = 7 + 2 + 1 = 7 + 1 + 1 + 1 \\ &\quad \vdots \\ &= 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 \end{aligned}$$

分割は足して 10 になるのは当然として、

- (i) 各足し算は左ほど数が大きい
- (ii) 各行で最大の数は同じ

はじめに

この各々を並べ替えます。例えば

$$8 + 1 + 1 = 1 + 8 + 1 = 1 + 1 + 8 \text{ の } 3 \text{ 通りあり}$$

$$7 + 2 + 1 = 7 + 1 + 2 = 2 + 7 + 1$$

$$= 2 + 1 + 7 = 1 + 7 + 2 = 1 + 2 + 7 \text{ の } 6 \text{ 通りある}$$

この並べ替えまで始めたものに対して○×が並んだ数を順に並べたものとします。例えば $1 + 8 + 1$ に対して順に○が 1 個 × が 8 個 ○ が 1 個と、順に × が 1 個 ○ が 8 個 × が 1 個と並んだ 2 つを対応させます。最初に出た○×で対応しているので、これですべてを列挙したことに対応し、最大数もすぐに分かる並べ方になっています。

はじめに

結果の表を作つてみると

最大数	1	2	3	4	5	
総数	2	176	370	254	126	
最大数	6	7	8	9	10	計
総数	56	24	10	4	2	1024

となります。

はじめに

実際に皆さんのが結果を見てみましょう。

○の数	0	1	2	3	4	5
人間 (第1ターム)	0	2	3	5	52	108
人間 (第2ターム)						
コイン (第1ターム)	0	2	5	23	60	63
コイン (第2ターム)						
理論値	1	10	45	120	210	252
○の数	6	7	8	9	10	計
人間 (第1ターム)	73	17	5	1	0	266
人間 (第2ターム)						
コイン (第1ターム)	67	34	11	1	0	266
コイン (第2ターム)						
総数	210	120	45	10	1	1024

はじめに

最大数	1	2	3	4	5	
人間 (第1ターム)	0	73	130	40	16	
人間 (第2ターム)						
コイン (第1ターム)	1	56	105	60	28	
コイン (第2ターム)						
総数	2	176	370	254	126	
最大数	6	7	8	9	10	計
人間 (第1ターム)	4	2	1	0	0	266
人間 (第2ターム)						
コイン (第1ターム)	9	5	0	2	0	266
コイン (第2ターム)						
総数	56	24	10	4	2	1024

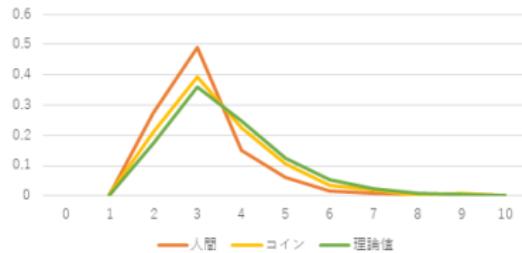
総数で割ったものを考えてグラフにすると

はじめに

○の数(2024-1)

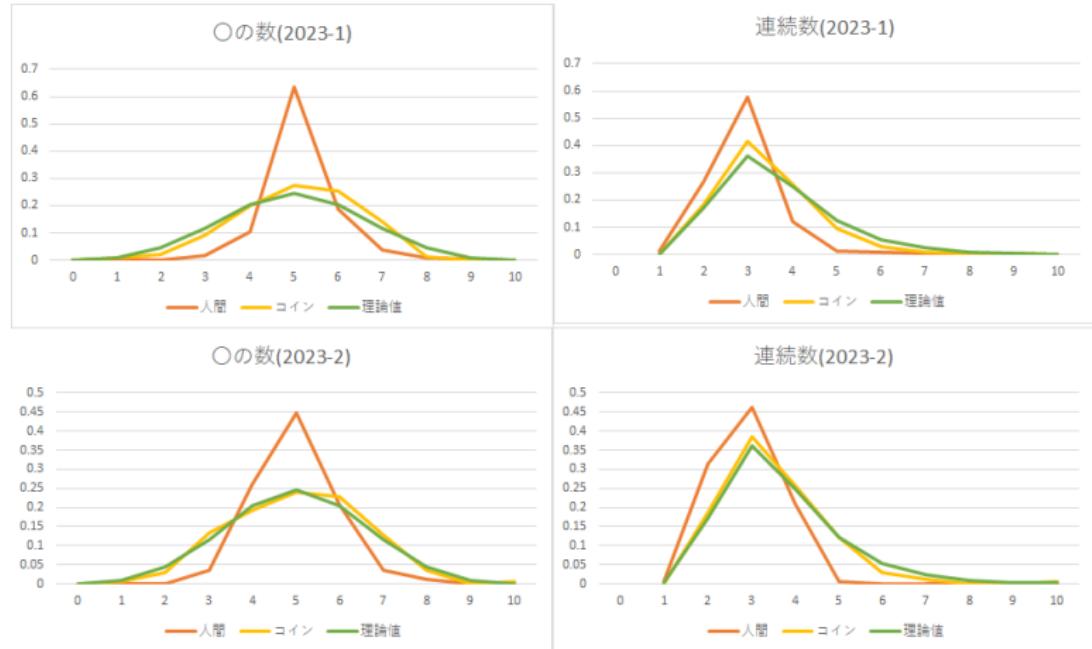


連続数(2024-1)

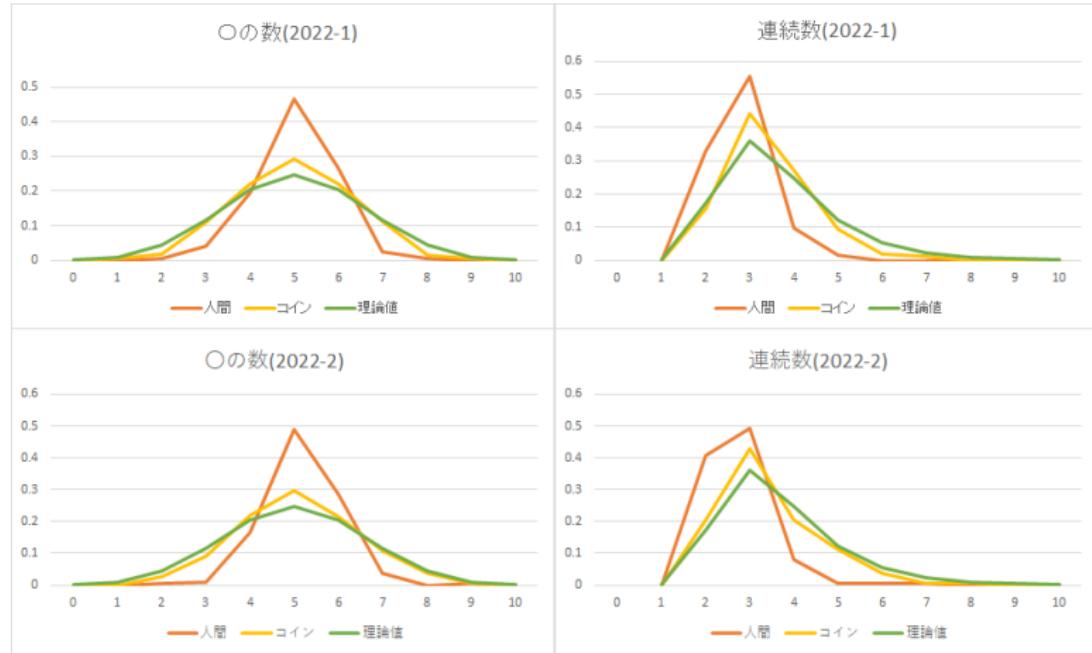


はじめに

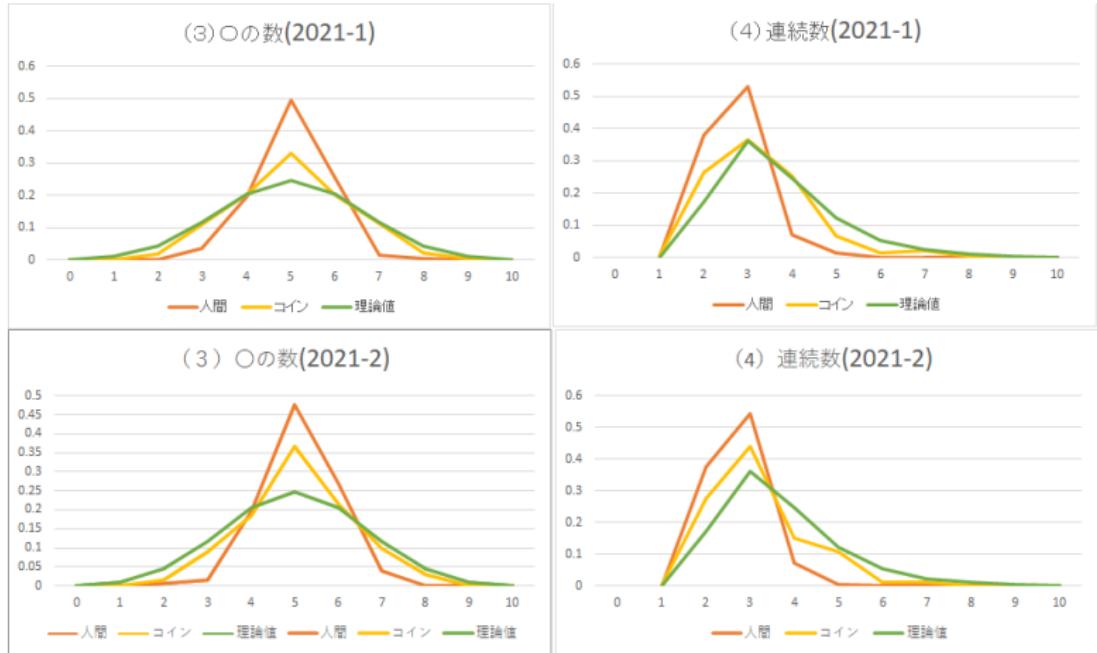
過去の同じ問題の結果のグラフを見ると



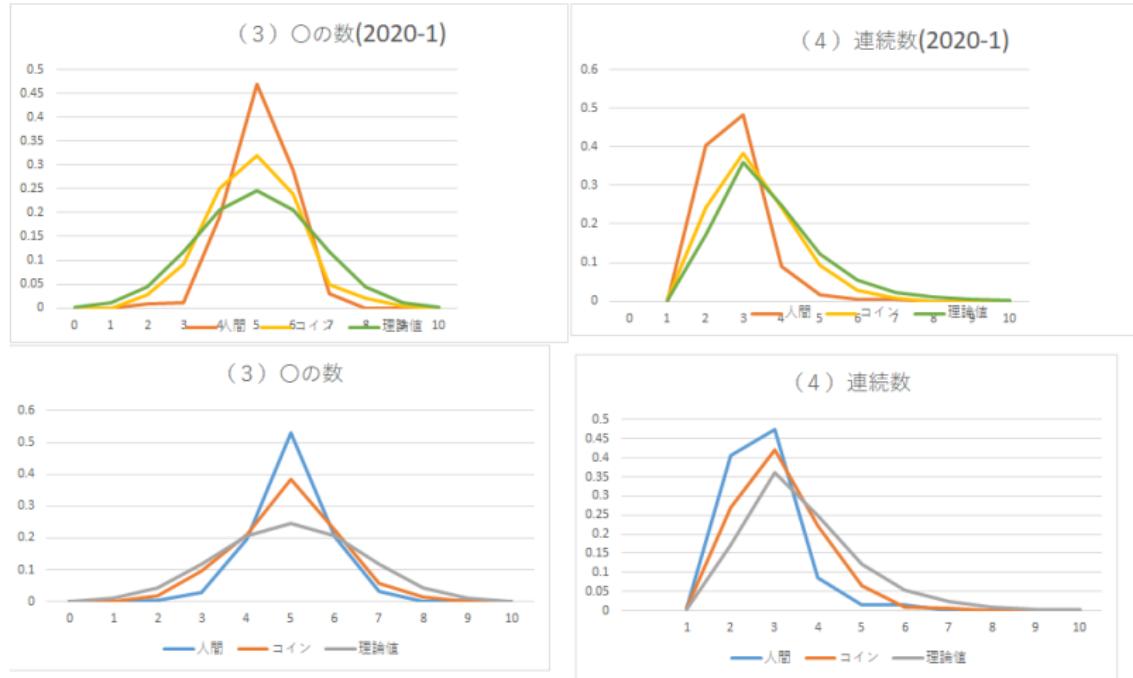
はじめに



はじめに



はじめに



と似たようなグラフになっています。

はじめに

○の数が 0,1,2,8,9,10, になるのは総数で 102 通りで、○または×が 6 個以上並ぶ並べ方は 96 通りあり、どちらの場合もおよそ 1 割になります。独立ではないので同時に考えることはしませんが、どちらか一方の場合だけを考えても、2 列程度では出てこなくてもおかしくないかもしれません、10 列作った時に 1 列くらいは出てきてもおかしくないです。こんな列を選ぶのはなかなか勇気がいるものです。

さらにこれらがどこに行ったかはグラフを見れば明らかで、○×の差では中央である 5 に集中して、連続して並ぶ最大数の場合は逆にほとんど並ばない 2 に集中しています。

たぶん皆さん、（正確な記述はともかくとして）大数の法則などの、こうなっているべきだという知識が先にあり、それを（意識したかどうかかも分かりませんが）結果として出しているようです。